

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 28 年 3 月 3 日 (2016.3.3)

【公表番号】特表 2015-508829 (P2015-508829A)
 【公表日】平成 27 年 3 月 23 日 (2015.3.23)
 【年通号数】公開・登録公報 2015-019
 【出願番号】特願 2014-553662 (P2014-553662)
 【国際特許分類】

C 1 0 G 75/04 (2006.01)

C 1 0 G 7/00 (2006.01)

【F I】

C 1 0 G 75/04

C 1 0 G 7/00

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 28 年 1 月 13 日 (2016.1.13)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 0 2
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 0 2】

炭化水素、例えば原油及び石油加工の中間生成物、並びに石油化学製品及び石油化学中間生成物は、加工の時に、一般的に 1 0 0 と 5 5 0 の間の温度、しばしば 2 0 0 と 5 5 0 の間の温度に加熱される。加熱システム及び熱交換システムにおいても、伝熱媒体として使用される炭化水素はこのような温度に曝される。事実上これらの全てのケースにおいて、使用された炭化水素は、高められた温度下において、不所望な分解生成物または副生成物を形成し、これらは、伝熱器の高温の表面上に堆積及び富化し得る。これらの堆積物の形成は、一般的に、比較的不安定の化合物、例えば酸化された及び/または酸化可能な炭化水素、並びにオレフィン性不飽和化合物の存在が原因であるが、高分子量の有機化合物及び無機汚染物もその要因である。具体的なケースでは、堆積及び富化する不純物は、加工すべき原材料または前生成物に既に含まれていることもある。鉱油蒸留物の具体的なケースでは、それに使用された原油が、一般的に、堆積物を招く成分、例えばアルカリ金属及びアルカリ土類金属塩、遷移金属含有化合物もしくは錯体、例えば硫化鉄もしくはポルフィリン類、硫黄含有化合物、例えばメルカプタン類、窒素含有化合物、例えばピロール類、カルボニル基もしくはカルボキシル基含有化合物、並びに多環式芳香族類、例えばアスファルテン類及び/もしくはコークス粒子を含む。更に、加工に使用される炭化水素は、事実上常に少量の溶解した酸素を含む。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 4 6
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 4 6】

モノマー性ポリオールでは、式 A) 中の n は 1 を表す。好ましいモノマー性ポリオールは、3 個から 1 0 個、特に 4 個から 6 個の C 原子を有する。更に、これらは、少なくとも 1 つの、好ましくは 1 つから 6 つの、例えば 2 つから 4 つの第二 O H 基を有するが、ただし C 原子 1 つあたり最大でも 1 つの O H 基である。適当なモノマー性ポリオールは、例えば、グリセリン、1, 2, 4 - ブタントリオール、1, 2, 6 - トリヒドロキシヘキサン

、並びに還元炭水化物及びこれの混合物である。ここで還元炭水化物とは、炭水化物から誘導されかつ二つの第一OH基並びに二つまたはそれ超の第二OH基を有するポリオールと解される。特に好ましい還元炭水化物は、4つから6つのC原子を有する。還元炭水化物の例は、エリトリトール、トレイトール、アドニトール、アラビトール、キシリトール、ズルシトール、マンニトール及びソルビトールである。特に好ましいモノマー性ポリオールはグリセリンである。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

他の好ましい実施形態の一つでは、反応混合物中において、分子量を高めるために、二つの第一OH基及び少なくとも一つの第二OH基を含有するポリオールの副次的な量を、三つ以上の第一OH基、例えば四つ、五つ、六つまたは七つ以上の第一OH基を有するポリオールで置き換える。この際好ましくは、最大でも10モル%、特に好ましくは0.1~8モル%、例えば0.5~4モル%の二つの第一OH基及び少なくとも一つの第二OH基を含有するポリオールが、三つ以上の第一OH基を有するポリオールで置き換えられる。三つ以上の第一OH基を有する適当なポリオールは、例えばトリメチロールエタン、トリメチロールプロパン及びペンタエリトリトールである。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0066

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0066】

液状炭化水素媒体へのポリエステルの添加は、好ましくは、その熱処理の前に行われる。これは、例えば液状炭化水素媒体の貯蔵容器中に非連続的に、または熱処理プラントへの供給ライン中に連続的に行うことができる。好ましくはこれは、液状炭化水素媒体の温度が、熱処理の最大温度よりも少なくとも10 低い箇所、特に少なくとも20 低い箇所、例えば少なくとも50 低い箇所で行われる。高粘性の炭化水素媒体の時は特に、液状炭化水素媒体中へのポリエステルの混入を、静的または動的混合装置を用いて援助することが多くの場合に有用であることが分かった。